通常の学級における
個に応じた指導・支援に関する全国調査

調査票

構成：担任票／特別支援教育コーディネーター票／学校票

Web掲載版では、電話番号・メールアドレスを掲載していません。

通常の学級における個に応じた指導・支援に関する調査票

担任票 Web アンケートフォーム冒頭　協力同意

1　学校コード〔必須〕（封筒の宛名部分に記載）

2　本調査に協力し、担任票に回答しますか〔必須〕

○ 協力し、担任票に回答する　○ 協力しない

「協力しない」を選択した場合は、担任票の質問画面へ進まず終了します。

「協力し、担任票に回答する」を選択した場合は、任意の 4 桁数字を入力して担任票へ進みます。

担任票

任意の 4 桁数字〔必須〕（御自身で決める半角数字 4 桁）					**担任区分〔必須〕 ○ 小学校第 1〜3 学年側　○ 小学校第 4〜6 学年側　○ 中学校第 1 学年　○ 中学校第 3 学年**

【この資料の見方】質問項目と回答形式を確認するための資料です。本資料に直接記入する必要はありません。回答は Web アンケート画面で行います。

【調査の目的】本調査は、通常の学級における個に応じた指導・支援の状況を把握し、学校での実践や校内支援体制づくりに役立つ知見として整理することを目的としています。

具体的には、以下の観点に着目して関連を整理します。

① 児童生徒の学びの状態と日常の指導・支援

② 担任の指導・支援と校内での相談・情報共有

③ 学校としての方針・支援体制と、特別支援教育コーディネーターによる相談・調整や担任の受け止め

また、担任、特別支援教育コーディネーター、管理職等の異なる立場から同じ学校の支援の状況を把握するために 3 票構成とし、学校としての方針や支援体制、校内での相談・調整、日常の指導・支援がどのように関係しているかを検討します。

個々の学校や教員を順位づけたり判定したりするものではありません。回答は研究目的に限って使用し、個人や学校が特定される形で公表しません。

この調査に正解・不正解はありません。自由記述以外の項目は、すべて御回答いただかないと送信できません。回答者ご自身が把握している範囲で、今年度の状況に最も近い回答を選んでください。

小学校及び義務教育学校前期課程では、回答者が担任されている通常の学級を対象とします。

中学校及び義務教育学校後期課程では、学級の状態・学級経営に関する項目は、回答者が担任している通常の学級についてお答えください。授業実践に関する項目は、その学級で担当している教科等の授業場面についてお答えください。校内での相談・情報共有、困難感、必要な支援は、今年度担任している回答対象学級での経験を中心にお答えください。

【この調査で想定する児童生徒】診断や通級による指導の利用の有無にかかわらず、日常の学習・生活場面において、特別な教育的支援が必要であると感じられる児童生徒を想定します。

【回答方法】各設問に示す選択肢に沿って、回答してください。

A　回答者・学級等について

回答者ご自身と、回答対象とする通常の学級 1 学級についてお答えください。

項目番号	項目	回答
T-A-01	学校種	☐ 小学校　☐ 中学校　☐ 義務教育学校　☐ その他（　　）
T-A-02	回答者のお立場	☐ 通常の学級の学級担任　☐ 学年担任制等における主担当　☐ その他（　　）
T-A-03	担当教科（中学校・義務教育学校後期課程等のみ。複数回答可）	☐ 国語　☐ 社会　☐ 数学　☐ 理科　☐ 外国語　☐ 音楽　☐ 美術　☐ 保健体育　☐ 技術・家庭　☐ その他

項目番号	項目	回答
T-A-04	担任する学年	□ 小1　□ 小2　□ 小3　□ 小4　□ 小5　□ 小6　□ 中1　□ 中2　□ 中3　□ 複数学年
T-A-05	教職経験（今年度を含めて何年目ですか）	□ 1年目　□ 2〜3年目　□ 4〜10年目　□ 11〜20年目　□ 21年目以上
T-A-05a	特別支援教育に関する担当経験（複数回答可）	□ 特別支援学校での勤務　□ 特別支援学級の担任・担当　□ 通級による指導の担当　□ 特別支援教育コーディネーター　□ その他（　　）　□ 上記の経験なし
T-A-05b	特別支援教育に関する担当等の経験（今年度を含め、担当経験は通算で何年目ですか。同じ年度に複数の担当を兼ねていた場合も、1年として数えてください。）	□ 1年目　□ 2〜3年目　□ 4〜10年目　□ 11〜20年目　□ 21年目以上　□ 該当する経験なし
T-A-06	回答の対象とする学級の児童生徒数	□ 10人未満　□ 10〜19人　□ 20〜29人　□ 30〜39人　□ 40人以上
T-A-07	回答の対象とする学級で、特別な支援が必要と感じる児童生徒のおおよその人数	□ 0人　□ 1人　□ 2〜3人　□ 4〜5人　□ 6人以上

B　回答対象の学級で見られる支援の必要性

回答対象学級において、今年度、児童生徒に見られる支援の必要性について、あてはまるものをすべて選んでください。「現時点では特にない」は、他の選択肢と同時に選ばないでください。

項目番号	内容	回答
T-B-01	見ることへの困難さに関する支援	□
T-B-02	聞くことへの困難さに関する支援	□
T-B-03	姿勢保持、移動、書字、作業など身体の動きに関する支援	□
T-B-04	病気や体調管理に関する支援	□
T-B-05	読み、書き、計算の困難さに関する支援	□
T-B-06	注意の持続、活動の切り替え、学習への取り組みに関する支援	□
T-B-07	感情の調整、行動面の困難さに関する支援	□
T-B-08	友人関係や、集団での学習・生活への参加に関する支援	□
T-B-09	ことばの理解や表現、コミュニケーションに関する支援	□
T-B-10	その他（具体的に：　　）	□
T-B-11	現時点では特にない	□

C　担任から見た学級の児童生徒の学びの状態

回答対象学級全体について、支援が必要な児童生徒を含む児童生徒に、次の状態がどの程度見られるかをお答えください。

Web掲載版では、電話番号・メールアドレスを掲載していません。

回答：1 ほとんどの児童生徒に見られない　2 一部の児童生徒に見られる　3 半数程度の児童生徒に見られる　4 多くの児童生徒に見られる　5 ほぼすべての児童生徒に見られる

項目番号	質問項目	1	2	3	4	5
T-C-01	安心して学習に参加している。	□	□	□	□	□
T-C-02	学習の流れや、何をすればよいかを理解して取り組んでいる。	□	□	□	□	□
T-C-03	自分に合った方法や必要な支援を活用して取り組んでいる。	□	□	□	□	□
T-C-04	自分の考えや、わからないこと・困っていることがみてとれる。	□	□	□	□	□
T-C-05	間違いやうまくいかないことがあっても、学習に取り組み続けている。	□	□	□	□	□
T-C-06	学習内容を理解したり、「できた」「わかった」と感じたりしている。	□	□	□	□	□

D　日常の指導・支援の状況

回答対象学級で現在行っている授業・学級経営上の取組についてお答えください。中学校等では、授業に関する項目は回答対象学級で回答者が担当する教科等の授業場面を、支援に関する項目は今年度の回答対象学級での取組全体を基準にしてください。

回答：1 まったくあてはまらない　2 あまりあてはまらない　3 どちらともいえない　4 ある程度あてはまる　5 よくあてはまる

項目番号	質問項目	1	2	3	4	5
T-D-01	児童生徒が授業の見通しを持てるように、活動の流れやめあてを示している。	□	□	□	□	□
T-D-02	説明、板書、配付物、ICT 等を組み合わせ、内容を理解しやすいようにしている。	□	□	□	□	□
T-D-03	発言、記述、選択、実物操作など、児童生徒が考えを表しやすい方法を用意している。	□	□	□	□	□
T-D-04	課題の量、手順、時間、提示方法を、児童生徒の状況に応じて調整している。	□	□	□	□	□
T-D-05	座席、掲示、音、光、動線など、学習しやすい教室環境を整えている。	□	□	□	□	□
T-D-06	児童生徒が困ったときに、援助を求めやすい方法を確認している。	□	□	□	□	□
T-D-07	学習上・行動上の困難が見られたとき、本人の特性だけでなく、課題の提示方法や教室環境との関係も検討している。	□	□	□	□	□
T-D-08	間違いやわからないことがあっても安心して学べるようにしている。	□	□	□	□	□
T-D-09	評価の観点や課題提出の方法について、必要に応じて取り組みやすい方法を検討している。	□	□	□	□	□
T-D-10	支援が必要な児童生徒について、保護者と学校での様子や支援方針を共有している。	□	□	□	□	□
T-D-11	学年の教員や教科担当者と、児童生徒への関わり方を共有している。	□	□	□	□	□
T-D-12	指導・支援の方法を、児童生徒の様子を見ながら適宜見直している。	□	□	□	□	□

E　校内での相談・情報共有の状況

今年度の回答対象学級で支援が必要になった場合に、相談・情報共有を利用できる状態についてお答えください。回答は、1「まったくあてはまらない」から 5「よくあてはまる」です。

項目番号	質問項目	1	2	3	4	5
T-E-01	必要な場合に、校内で相談できる相手がいる。	□	□	□	□	□
T-E-02	必要な場合に、特別支援教育コーディネーターに相談しやすい。	□	□	□	□	□
T-E-03	必要な場合に、管理職や学年主任等と、通常の学級での支援について相談できる。	□	□	□	□	□
T-E-04	必要な場合に、児童生徒への支援方針を、関係する教職員と確認できる。	□	□	□	□	□

項目番号	質問項目	1	2	3	4	5
T-E-05	必要な場合に、授業や学級経営で活用できる形で、情報や助言を得られる。	□	□	□	□	□
T-E-06	必要な場合に、校内で共有された支援方針を、日常の授業や学級経営に生かせる。	□	□	□	□	□
T-E-07	必要な場合に、外部専門家や関係機関から得た助言を、授業や学級経営に生かせる。	□	□	□	□	□

F　相談・確認の頻度

今年度の回答対象学級で、相談や支援方針の確認を実際に行った頻度についてお答えください。「必要な場面なし」と、0「必要な場面はあったが実施していない」を区別してください。1＝年 1〜数回程度、2＝月 1 回程度、3＝月 2〜3 回程度、4＝週 1 回以上です。

項目番号	質問項目	必要な場面なし	0	1	2	3	4
T-F-01	支援が必要な児童生徒について、校内の教職員に相談する機会	□	□	□	□	□	□
T-F-02	支援が必要な児童生徒について、特別支援教育コーディネーターに相談する機会	□	□	□	□	□	□
T-F-03	支援内容を、学年会や校内委員会等で確認する機会	□	□	□	□	□	□
T-F-04	保護者と支援の状況や方針について共有する機会	□	□	□	□	□	□

G　通常の学級での指導・支援に関する困難さ

今年度の回答対象学級で、支援が必要な児童生徒への指導・支援に関する経験の有無を選んでください。「該当する経験なし」の場合は、T-G-01〜T-G-08 を飛ばして H へ進んでください。

項目番号	項目	回答
T-G-00	今年度、回答対象学級で、支援が必要な児童生徒へ指導・支援をする経験がありましたか。	□ 該当する経験あり　□ 該当する経験なし

T-G-00 で「該当する経験あり」を選んだ方は、経験した場面を振り返り、回答してください。各項目の場面を今年度経験していない場合は、その行の「該当する経験なし」を選んでください。回答：1 まったく感じない　2 あまり感じない　3 どちらともいえない　4 やや感じる　5 強く感じる

項目番号	質問項目	1	2	3	4	5	該当する経験なし
T-G-01	支援が必要な児童生徒の状況を、授業や学級経営の中で十分に把握することが難しい。	□	□	□	□	□	□
T-G-02	学級全体への指導と個別の支援を両立することが難しい。	□	□	□	□	□	□
T-G-03	授業中に必要な支援を行う時間や人手を確保することが難しい。	□	□	□	□	□	□
T-G-04	支援の方法が適切かどうかを判断することが難しい。	□	□	□	□	□	□
T-G-05	支援を始める際に、関係する教職員と方針をそろえることが難しい。	□	□	□	□	□	□
T-G-06	保護者との情報共有や支援方針の意見のすり合わせが難しい。	□	□	□	□	□	□
T-G-07	複数の教員が関わる場合、情報共有を続け、指導・支援の一貫性を保つことが難しい。	□	□	□	□	□	□
T-G-08	支援が必要な児童生徒への指導・支援を、自分一人で抱え込みやすい。	□	□	□	□	□	□

H　今後必要だと感じる支援・情報

今年度の回答対象学級での経験を中心に、今後必要だと感じる支援・情報をすべて選んでください。「現時点では特にない」は、他の選択肢と同時に選ばないでください。

項目番号	内容	回答
T-H-01	通常の学級で行いやすい授業中の支援に関する情報	☐
T-H-02	学級経営や集団づくりに関する情報	☐
T-H-03	支援が必要な児童生徒の理解に関する研修	☐
T-H-04	校内で相談できる時間や体制	☐
T-H-05	特別支援教育コーディネーターからの助言	☐
T-H-06	管理職や学年主任等による調整	☐
T-H-07	外部専門家や関係機関からの助言	☐
T-H-08	教材、ICT、支援機器等の活用に関する情報	☐
T-H-09	その他（具体的に：　　）	☐
T-H-10	現時点では特にない	☐

I　自由記述（任意）

T-I-01　通常の学級で現在行っている指導・支援のうち、児童生徒の学習参加や学びにつながっていると感じる取組があれば、具体例を一つ記入してください。（任意）
T-I-02　通常の学級での個に応じた指導・支援を行う上で、学校に整えてほしい環境や仕組み、その他必要な支援があれば記入してください。（任意）

Web掲載版では、電話番号・メールアドレスを掲載していません。

通常の学級における個に応じた指導・支援に関する調査票

特別支援教育コーディネーター票　Web アンケートフォーム冒頭　協力同意

【回答者の確認】本票は、校務分掌上、特別支援教育コーディネーターを担当し、本票の回答者として選定された方にお願いします。学校票には別の方が回答します。御自身が学校票と特別支援教育コーディネーター票の両方の回答者に選定されている場合は、回答前に校内で選定を調整してください。他の方の回答内容や回答の有無を確認する必要はありません。

1　学校コード〔必須〕（封筒の宛名部分に記載）

2　本調査に協力し、特別支援教育コーディネーター票に回答しますか〔必須〕

○ 協力し、特別支援教育コーディネーター票に回答する　○ 協力しない

「協力しない」を選択した場合は、特別支援教育コーディネーター票の質問画面へ進まず終了します。

「協力し、特別支援教育コーディネーター票に回答する」を選択した場合は、任意の 4 桁数字を入力して特別支援教育コーディネーター票へ進みます。

特別支援教育コーディネーター票

任意の４桁数字〔必須〕（御自身で決める半角数字４桁）				

【この資料の見方】質問項目と回答形式を確認するための資料です。本資料に直接記入する必要はありません。回答は Web アンケート画面で行います。

【調査の目的】本調査は、通常の学級における個に応じた指導・支援の状況を把握し、学校での実践や校内支援体制づくりに役立つ知見として整理することを目的としています。

具体的には、以下の観点に着目して関連を整理します。

① 児童生徒の学びの状態と日常の指導・支援

② 担任の指導・支援と校内での相談・情報共有

③ 学校としての方針・支援体制と、特別支援教育コーディネーターによる相談・調整や担任の受け止め

また、担任、特別支援教育コーディネーター（以下「コーディネーター」）、管理職等の異なる立場から同じ学校の支援の状況を把握するために３票構成とし、学校としての方針や支援体制、校内での相談・調整、日常の指導・支援がどのように関係しているかを検討します。

個々の学校や教員を順位づけたり判定したりするものではありません。回答は研究目的に限って使用し、個人や学校が特定される形で公表しません。

この調査に正解・不正解はありません。自由記述以外の項目は、すべて御回答いただかないと送信できません。回答者ご自身が把握している範囲で、今年度の状況に最も近い回答を選んでください。

特に指定がない限り、通常の学級の担任等から受けた相談、校内での調整、関係教職員との情報共有、外部専門家等との連携の状況についてお答えください。

【回答方法】各設問に示す選択肢に沿ってご回答ください。

A　回答者について

回答者ご自身の立場と経験についてお答えください。

項目番号	項目	回答
C-A-01	学校種	☐ 小学校　☐ 中学校　☐ 義務教育学校　☐ その他（　　）
C-A-02	所属上の主な職	☐ 管理職　☐ 主幹教諭・指導教諭　☐ 教諭　☐ 養護教諭　☐ その他（　　）
C-A-03	現在の兼務状況（複数回答可）	☐ 学級担任　☐ 学年主任　☐ 通級担当　☐ 特別支援学級担任　☐ 分掌主任　☐ その他（　　）　☐ 兼務なし
C-A-04	コーディネーターとしての経験年数（今年度を含めて通算で何年目ですか）	☐ 1 年未満　☐ 1 年以上 3 年未満　☐ 3 年以上 10 年未満　☐ 10 年以上
C-A-05	コーディネーター以外の特別支援教育に関する担当経験（複数回答可）	☐ 特別支援学校での勤務　☐ 特別支援学級の担任・担当　☐ 通級による指導の担当　☐ その他（　　）　☐ コーディネーター以外の担当経験なし

B　校内での相談・調整・情報共有の状況

今年度、通常の学級の担任（以下「担任」といいます）を支える校内の相談・調整・情報共有の状態についてお答えください。回答は、1「まったくあてはまらない」、2「あまりあてはまらない」、3「どちらともいえない」、4「ある程度あてはまる」、5「よくあてはまる」です。

項目番号	質問項目	1	2	3	4	5
C-B-01	担任が、児童生徒の支援に関する相談をしやすい体制がある。	□	□	□	□	□
C-B-02	担任からの相談内容を整理し、必要な支援や役割分担の検討につなげている。	□	□	□	□	□
C-B-03	支援方針について、担任や関係する教職員と確認する機会がある。	□	□	□	□	□
C-B-04	必要に応じて、管理職、学年主任、養護教諭、通級担当等との調整を行っている。	□	□	□	□	□
C-B-05	担任が一人で抱え込まないよう、校内で役割分担を確認している。	□	□	□	□	□
C-B-06	外部専門家や関係機関から得た助言を、担任の実践につながる形で共有している。	□	□	□	□	□
C-B-07	通常の学級での支援について、校内で共通理解を図る機会がある。	□	□	□	□	□
C-B-08	支援内容が、授業や学級経営に反映されているかを確認している。	□	□	□	□	□
C-B-09	担任に対して、必要な情報や教材等を紹介している。	□	□	□	□	□
C-B-10	担任と保護者との連携を支えている。	□	□	□	□	□

C　相談・検討・連携の頻度

今年度、相談・検討・連携を実際に行った頻度についてお答えください。「必要な場面なし」と、0「必要な場面はあったが実施していない」を区別してください。1＝年 1〜数回程度、2＝月 1 回程度、3＝月 2〜3 回程度、4＝週 1 回以上です。

項目番号	質問項目	必要な場面なし	0	1	2	3	4
C-C-01	担任から相談を受ける機会	□	□	□	□	□	□
C-C-02	担任、管理職、関係教職員で支援方針を確認する機会	□	□	□	□	□	□
C-C-03	校内委員会等で通常の学級の支援について検討する機会	□	□	□	□	□	□
C-C-04	外部専門家や関係機関と連携する機会	□	□	□	□	□	□
C-C-05	通常の学級の支援に関する校内研修や情報提供の機会	□	□	□	□	□	□

D　コーディネーターとして感じる困難さ

今年度、担任を支える役割を担う中で感じた困難についてお答えください。回答：1 まったく感じない　2 あまり感じない　3 どちらともいえない　4 やや感じる　5 強く感じる

項目番号	質問項目	1	2	3	4	5
C-D-01	担任からの相談内容を、校内で共有・調整する時間を確保することが難しい。	□	□	□	□	□
C-D-02	通常の学級での支援方針を、関係する教職員の間でそろえることが難しい。	□	□	□	□	□
C-D-03	担任が困っていることを把握しても、具体的な支援につなげることが難しい。	□	□	□	□	□

Web掲載版では、電話番号・メールアドレスを掲載していません。

項目番号	質問項目	1	2	3	4	5
C-D-04	管理職や学年主任等と連携することが難しい。	□	□	□	□	□
C-D-05	専門家や関係機関との連携から得た助言や情報を、日常の実践に生かすことが難しい。	□	□	□	□	□
C-D-06	通常の学級で活用しやすい支援情報や教材を用意することが難しい。	□	□	□	□	□

E　通常の学級を支えるために必要だと感じること

今年度の経験を踏まえ、通常の学級を支えるために必要だと感じるものをすべて選んでください。「現時点では特にない」は、他の選択肢と同時に選ばないでください。

項目番号	内容	回答
C-E-01	担任の相談を受ける時間の確保	□
C-E-02	校内で支援方針を共有する仕組み	□
C-E-03	管理職や学年主任等との連携	□
C-E-04	外部専門家や関係機関との連携	□
C-E-05	通常の学級で使いやすい教材・教具の情報	□
C-E-06	コーディネーター向けの研修や情報提供	□
C-E-07	その他（具体的に：　　）	□
C-E-08	現時点では特にない	□

F　自由記述（任意）

C-F-01　担任を支えるうえで、校内体制として必要だと感じることがあれば記入してください。

Web掲載版では、電話番号・メールアドレスを掲載していません。

通常の学級における個に応じた指導・支援に関する調査票

学校票 Web アンケートフォーム冒頭　学校としての協力確認・学校票回答

学校としての協力確認と学校票への回答を一体として確認します。学校として協力する場合でも、コーディネーター及び担任の回答は任意です。

【回答者の確認】学校票と特別支援教育コーディネーター票は、異なる方が回答します。御自身が学校票と特別支援教育コーディネーター票の両方の回答者に選定されている場合は、回答前に校内で選定を調整してください。他の方の回答内容や回答の有無を確認する必要はありません。

1　学校コード〔必須〕（封筒の宛名部分に記載）

2　学校として本調査に協力し、学校票に回答しますか〔必須〕

○ 協力し、学校票に回答する　○ 協力しない

「協力しない」を選択した場合は、学校票の質問画面へ進まず終了します。

「協力し、学校票に回答する」を選択した場合は、任意の 4 桁数字を入力して学校票へ進みます。

学校票

任意の４桁数字〔必須〕（御自身で決める半角数字４桁）				

【この資料の見方】質問項目と回答形式を確認するための資料です。本資料に直接記入する必要はありません。回答は Web アンケート画面で行います。

【調査の目的】本調査は、通常の学級における個に応じた指導・支援の状況を把握し、学校での実践や校内支援体制づくりに役立つ知見として整理することを目的としています。

具体的には、学級で見られる児童生徒の学びの状態、担任が行っている指導・支援、校内での相談・情報共有、学校としての方針や支援体制等について把握します。

特に、以下の観点に着目して関連を整理します。

① 児童生徒の学びの状態と日常の指導・支援

② 担任の指導・支援と校内での相談・情報共有

③ 学校としての方針・支援体制と、特別支援教育コーディネーターによる相談・調整や担任の受け止め

また、担任、特別支援教育コーディネーター、管理職等の異なる立場から同じ学校の支援の状況を把握するために３票構成とし、学校としての方針や支援体制、校内での相談・調整、日常の指導・支援がどのように関係しているかを検討します。

個々の学校や教員を順位づけたり判定したりするものではありません。回答は研究目的に限って使用し、個人や学校が特定される形で公表しません。

この調査に正解・不正解はありません。自由記述以外の項目は、すべて御回答いただかないと送信できません。回答者ご自身が把握している範囲で、今年度の状況に最も近い回答を選んでください。

【回答する範囲】学校票は、上記③に該当するもので、特別支援教育コーディネーター票の回答者とは別の、校長、又は校長から回答を委任された副校長・教頭等の管理職１名が回答してください。該当する管理職を別に選定できない場合は、主幹教諭、教務主任等のうち、学校全体の状況を把握している方１名を校長が指定してください。回答者個人の実践ではなく、今年度の学校全体としての方針、校内支援体制、相談・情報共有の状況について、必要に応じて特別支援教育コーディネーター等に事実関係を確認してお答えください。各票の回答内容や回答の有無を確認する必要はありません。

【回答方法】各設問に示す選択肢に沿ってご回答ください。

A　学校の状況について

回答者と学校の背景条件についてお答えください。

項目番号	項目	回答
S-A-01	回答者のお立場	☐ 校長　☐ 副校長・教頭　☐ 主幹教諭　☐ その他（　）
S-A-01a	現在の校長がこれまでに経験した特別支援教育に関する担当（校長本人に確認してお答えください。複数回答可）	☐ 特別支援学校での勤務　☐ 特別支援学級の担任・担当　☐ 通級による指導の担当　☐ 特別支援教育コーディネーター　☐ 教育委員会等での特別支援教育担当　☐ その他の特別支援教育に関する担当　☐ 上記の担当経験なし（他の選択肢と同時に選ばない）

項目番号	項目	回答
S-A-01b	上記の担当経験の通算年数（S-A-01a で担当経験がある場合。同じ年度に複数の担当を経験しても 1 年として数える）	☐ 5 年以内　☐ 6〜10 年　☐ 11〜15 年　☐ 16〜20 年　☐ 21 年以上
S-A-02	学校種	☐ 小学校　☐ 中学校　☐ 義務教育学校　☐ その他（　）
S-A-03	学校規模（児童生徒数）	☐ 100 人未満　☐ 100〜299 人　☐ 300〜599 人　☐ 600 人以上
S-A-04	通常の学級数	☐ 5 学級以下　☐ 6〜11 学級　☐ 12〜17 学級　☐ 18 学級以上
S-A-05	特別支援学級の設置状況	☐ 設置あり　☐ 設置なし
S-A-06	通級指導教室の設置状況（東京都の特別支援教室を含む）	☐ 自校に設置あり　☐ 自校に設置なし
S-A-07	自校の通常の学級に在籍する児童生徒の通級による指導の利用状況	☐ 自校通級のみ　☐ 他校通級のみ　☐ 自校・他校の両方　☐巡回指導　☐ 利用者なし
S-A-08	学校票回答者と特別支援教育コーディネーター票回答者は同一人物ですか。※選定された方についてお答えください。同一人物の場合は、回答前に校内で選定を調整してください。	☐ 同一ではない　☐ 同一である
S-A-09	今年度、小学校 5・6 年又は義務教育学校前期課程の該当学年で実施している指導体制（複数回答可）	☐ 学級担任を中心とする体制　☐ 教科担任制・専科指導　☐ 学年担任制・チーム担任制　☐ その他　☐ 該当学年なし　※「該当学年なし」は、他の選択肢と同時に選ばないでください。

B　学校としての方針・校内支援体制

今年度の学校全体としての方針・校内支援体制についてお答えください。回答：1 まったくあてはまらない　2 あまりあてはまらない　3 どちらともいえない　4 ある程度あてはまる　5 よくあてはまる

項目番号	質問項目	1	2	3	4	5
S-B-01	学校として、通常の学級における個に応じた指導・支援に関する方針を共有している。	☐	☐	☐	☐	☐
S-B-02	通常の学級での支援を、担任個人だけに任せない体制づくりを進めている。	☐	☐	☐	☐	☐
S-B-03	管理職が、通常の学級担任が感じている困難や支援ニーズを把握する機会がある。	☐	☐	☐	☐	☐
S-B-04	特別支援教育コーディネーターの役割が校内で共有されている。	☐	☐	☐	☐	☐
S-B-05	校内委員会等で、通常の学級の支援について継続的に検討している。	☐	☐	☐	☐	☐
S-B-06	学年会や教科会等で、支援が必要な児童生徒への関わり方を共有している。	☐	☐	☐	☐	☐
S-B-07	校内研修で、通常の学級における支援を扱う機会がある。	☐	☐	☐	☐	☐
S-B-08	支援内容を、関係する教職員と共有できるようにしている。	☐	☐	☐	☐	☐
S-B-09	必要な場合に、外部専門家や関係機関との連携が実際に行われている。	☐	☐	☐	☐	☐
S-B-10	支援の状況を踏まえて、学校として授業や学級経営を支える方策を検討している。	☐	☐	☐	☐	☐

C　校内での検討・研修・連携の頻度

今年度、校内での検討・研修・連携を実際に行った頻度についてお答えください。「必要な場面なし」と、0「必要な場面はあったが実施していない」を区別してください。1＝年 1〜数回程度、2＝月 1 回程度、3＝月 2〜3 回程度、4＝週 1 回以上です。

項目番号	質問項目	必要な場面なし	0	1	2	3	4
S-C-01	校内委員会等で、通常の学級における支援について扱う機会	□	□	□	□	□	□
S-C-02	通常の学級の支援に関する校内研修や情報提供の機会	□	□	□	□	□	□
S-C-03	管理職、コーディネーター、担任等で支援方針を確認する機会	□	□	□	□	□	□
S-C-04	外部専門家、特別支援学校のセンター的機能や関係機関と連携する機会	□	□	□	□	□	□

D　学校として感じる課題

今年度、学校全体として通常の学級を支える際に感じている課題についてお答えください。回答：1 まったくあてはまらない　2 あまりあてはまらない　3 どちらともいえない　4 ややあてはまる　5 よくあてはまる

項目番号	質問項目	1	2	3	4	5
S-D-01	通常の学級での支援を担任個人に任せがちになる。	□	□	□	□	□
S-D-02	支援が必要な児童生徒に関する情報を、関係する教職員で共有することが難しい。	□	□	□	□	□
S-D-03	校内で相談や検討を行う時間を確保することが難しい。	□	□	□	□	□
S-D-04	学校規模や指導体制など、本校の条件に応じた支援体制を整えることが難しい。	□	□	□	□	□
S-D-05	専門家や関係機関との連携から得た助言や情報を、日常の実践に生かすことが難しい。	□	□	□	□	□
S-D-06	通常の学級の担任を支える研修や情報を十分に用意することが難しい。	□	□	□	□	□

E　今後必要だと考える支援・情報

今年度の学校全体の状況を踏まえ、今後必要だと考える支援・情報をすべて選んでください。「現時点では特にない」は、他の選択肢と同時に選ばないでください。

項目番号	内容	回答
S-E-01	通常の学級での支援に関する研修資料	□
S-E-02	管理職向けの体制づくりに関する情報	□
S-E-03	特別支援教育コーディネーターの役割整理	□
S-E-04	担任が相談しやすい校内体制づくりの事例	□
S-E-05	小規模校や中学校での支援体制に関する情報	□
S-E-06	外部専門家や関係機関との連携方法	□
S-E-07	その他（具体的に：　　）	□
S-E-08	現時点では特にない	□

F　合理的配慮の検討・提供と、それを支える環境・資源（周辺情報）

以下は、合理的配慮に関する周辺情報を確認するもので、法令上の対応の適否や、学校の取組が十分かどうかを判断するものではありません。また、合理的配慮全体又は基礎的環境整備全体を網羅的に測定するものではありません。

合理的配慮は、個別の状況に応じて検討される変更・調整です。個別の合理的配慮の検討・提供過程と、それを支える学校全体の環境・資源を区別してお答えください。

項目番号	質問項目・内容	回答
S-F-00	今年度、通常の学級に在籍する児童生徒について、本人・保護者からの相談・申出又は学校からの提案を踏まえ、合理的配慮を検討した事例についてお答えください。	□ 合理的配慮を検討し、提供した事例があった □ 合理的配慮を検討中、または検討したが、提供には至っていない事例のみだった □ 合理的配慮を検討した事例はなかった

【個別の合理的配慮の検討・提供過程】S-F-00 で「合理的配慮を検討し、提供した事例があった」又は「合理的配慮を検討中、または検討したが、提供には至っていない事例のみだった」を選んだ学校は S-F-01・02 にお答えください。合理的配慮を提供した事例があった学校は S-F-03 にもお答えください。複数の事例がある場合は、今年度の事例全体を通じた学校としての状況に最も近い回答を選んでください。回答：1 まったくあてはまらない　2 あまりあてはまらない　3 どちらともいえない　4 ある程度あてはまる　5 よくあてはまる

項目番号	質問項目	1	2	3	4	5
S-F-01	本人・保護者との対話を通じ、児童生徒の状況や意向を踏まえて合理的配慮内容を検討している。	□	□	□	□	□
S-F-02	検討・確認した合理的配慮内容、実施場面、関係教職員の役割を共有し、必要に応じて個別の教育支援計画・個別の指導計画等に記録している。	□	□	□	□	□
S-F-03	合理的配慮について、児童生徒の状況や意向を踏まえて適宜見直している。	□	□	□	□	□

【合理的配慮を支える学校全体の環境・資源】

すべての学校が回答してください。今年度、通常の学級における合理的配慮の検討・提供を支える学校全体の環境・資源として、校内で利用できるものをすべて選んでください。「該当する資源がない」は、他の選択肢と同時に選ばないでください。

項目番号	内容	回答
S-F-04a	相談窓口、検討手順、役割分担	□
S-F-04b	教材、ICT、支援機器等	□
S-F-04c	支援員、通級担当、専門的助言等の人的・専門的資源	□
S-F-04d	教室、施設・設備等の環境	□
S-F-04e	教職員への研修・情報共有	□
S-F-04f	教育委員会、設置者、特別支援学校、　外部専門家・関係機関等への相談先	□
S-F-04g	その他（具体的に：　　）	□
S-F-04h	該当する資源がない	□

G　自由記述（任意）

S-G-01　通常の学級における個に応じた指導・支援を進めるうえで、貴校で必要だと考える取組や体制があれば記入してください。
S-G-02　通常の学級における個に応じた指導・支援を進めるうえで、教育委員会や関係機関等から貴校に対して必要だと考える支援があれば記入してください。

Web掲載版では、電話番号・メールアドレスを掲載していません。